

道北・空知



反転均平工法普及を

空知総合局南部耕地が研修

【岩見沢】空知総合局南部耕地出張所は17日、南幌町で反転均平工法の現場研修会を開いた。同局産業振興部の整備課や調整課、東部、南部耕地出張所職員のほか、地域の農家や関係企業などから約60人が参加し、工法について理解を深めた。



同工法は、区画整理に用いられる工法で、農作物を育てる作土と、その下の心土をレーザープラウを用い現場を見学し理解を深めた。

て反転してから整地し、最後に再び反転して作土を表層に戻すことで、ほ場の土壌構造を維持する。作土を別の場所に移してから作業する工法に比べると施工時間やコストの縮減が望める。しかし同工法を適用するにはほ場の条件などいくつかのポイントがあることから、職員や関係者の理解を深め、同工法をより広く普及させることを目指して研修会を実施した。

研修は馬淵建設が施工する経営体西幌地区61工区の場内で行った。新型コロナウイルス感染症対策のため、現場では適度な間隔の確保などを徹底しつつ研修を進めた。あいさつで南部耕地出張所の永森孝史所長は

「近年要望が増加している中、限られた財源で計画的に整備を進めるには低コストでの施工が必要となる」と同工法の重要性を訴えた。

その後、各担当者が地区、工事概要などを説明。実際に同工法を用いたほ場整備を経験した農家を代表して河村由紀男さんが、同工法の説明を受けた際に感じた不安や施工後のほ場について現状を報告し、「整備後の収量や営農への支障は、他の工法と比べて差を感じなかった」と述べた。

最後に、現場で実際にレーザープラウが稼働し、ほ場を整備している様子を見学した。